

令和4年度 杜の都のエコ・スクール活動報告

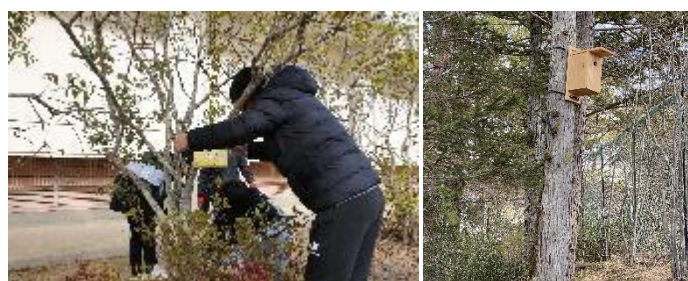
学校番号	82	学校名	仙台市立大沢小学校	校長名	高橋 昌子
------	----	-----	-----------	-----	-------

1 取組のタイトル, テーマ
「大沢小の豊かな自然」プロジェクト



2 取組の紹介

大沢小学校は学校の周囲に田園が広がり、遠方には山々がそびえ立つ豊かな自然の中に立地しております。2年前に「コロナ禍でも子供たちが元気いっぱい過ごせるように」と、地域の方がプール脇に25mほどの大きな花壇を作ってくださいました。昨年度、その花壇を「150周年記念花壇」として整備工事を行い、更に環境を整えました。今年度は、その花壇に環境委員会や1年生がパンジーやピオラの苗を植えました。



昨年2月には、学校環境緑化事業として、6年生が150周年を祝うヤエザクラの植樹をしたり、木に巣箱を取り付けたりし、生き物と共存できる環境を校内に作りました。今年度、鳥が来ているかを見ようと休み時間に巣箱を見に行く児童もいました。

大沢小学校の取組の大きな特徴として、5年生の田植え、稲刈り活動があります。宮城県でもたくさんの米が収穫される大沢地域の田んぼの一角をお借りし、JA仙台大沢青年部の方々や地域の皆様の御協力をいただいて、毎年田植え、稲刈り活動を行っています。また、収穫した米は自分たちで小さな袋に詰め、「大沢米」のラベリングをして、お世話になっている学校ボランティアの方々に配付したり給食で食べたりしています。この取組から自分たちで田植えや稲刈りをする大変さや収穫した米の有り難さを学んでいます。



3 取組の成果 (児童生徒の変容)

今年度もコロナ禍を意識しながらの学校生活でしたが、自然豊かな大沢地域の特色を生かした取組を行いました。校庭で遊ぶ子供たちが、プール脇の花壇の花から春夏秋冬を感じたり、植物を大切にしようとする気持ちを持ったりする様子が見られました。また、広大な土地と大倉ダムからのきれいな水が流れる環境での農業体験活動は大沢小学校ならではの活動です。田植え、収穫だけでなく、総合的な学習の時間において、稲を育てる過程や育てるために大切なこと、苦勞することや人々の願いなど様々なことを学び、食べ物を育てる大変さや食への感謝を学ぶことができました。

令和4年度 杜の都のエコ・スクール活動報告

学校番号	83	学校名	仙台市立川前小学校	校長名	川合 輝文
------	----	-----	-----------	-----	-------

1 取組のタイトル, テーマ

- 3 学年 総合的な学習の時間 ～大豆の秘密を探る～
- 4 学年 総合的な学習の時間 ～里山を人が集まる森にしよう～
- 5 学年 総合的な学習の時間 ～地元の米作りに学ぶ～



2 取組の紹介

本校の総合的な学習の時間の大きな柱は「地域」です。この「地域」について、低学年の生活科、中・高学年の総合的な学習の時間をおとして、様々な視点から学習を進めています。中でも、3年生、4年生、5年生では、地域の自然や農業と人々の関わりをテーマとして学習に取り組み、自然の大切さや、地域の方々の思いに気づき、川前の地域をよりよくしていこうという気持ちを高めることを目的として学習を進めています。

3年生は、学校に隣接している地域の方から借り受けている畑で大豆の栽培をすることから始まり、植物を育てる経験をおとして、良い作物ができるためには、土や水といった自然環境の大切であるということに気づきました。そして収穫した大豆で「みそづくり」を行い、地域に伝わる伝統も学びました。

4年生は、学区内にある里山に生息する虫や動物、自生する植物などの自然に触れながら、里山のすばらしさ、里山に関わる地域の方々の思いや願い、里山を維持していくための課題など、様々な視点から里山について学びました。

5年生は、地域の方から借り受けた田んぼを使って、苗植えから、稲の観察や除草作業、稲刈り、脱穀作業などを体験しました。また、これらの体験学習では、多くの地域の方々から協力いただき、地域の方々が、「地元で採れた農作物を地元の人々に食べてほしい」という願いにも触れ、川前に存在するすばらしい自然環境を守り、農業環境を維持していく大切さを学びました。

3 取組の成果 (児童生徒の変容)

子供たちは、川前地域のかげがえのない自然環境や地域の方々の川前地域に対する思いに触れながら、先人たちが自然環境を大切に守ってきたことを知り、自分たちも川前地域の自然環境を守ろうとする心情が育ちました。

また、地域の方に協力いただきながら、自分たちの住む川前の水や土で育てた作物を自分たちが食べるという体験は、これからも自分たちの住んでいる地域の自然環境を守り続けていきたいという気持ちを持つことにつながり、「SDGs」の「陸の豊かさを守ろう」につながる学習となりました。

3年生 大豆の収穫



4年生 里山の学習



5年生 苗植え



5年生 稲刈り



令和4年度 杜の都のエコ・スクール活動報告

学校番号	85	学校名	仙台市立吉成小学校	校長名	佐野 憲司
------	----	-----	-----------	-----	-------

1 取組のテーマ

「わたしたちのまわりの環境を整備しよう」



2 取組の紹介

① 「ふるさとの杜再生プロジェクト」

- ・3年生の総合的な学習の時間で、震災による津波で失われた荒浜地区の杜を再生するための活動や、その活動に関わっている人々の思いについて教えていただきました。10月20日には、荒浜地区にある海岸防災林での植樹活動を行いました。コナラやヤマハンノキなどの広葉樹を植えました。植樹した苗木が育ち大木になるまでには、20～30年かかると言われており、震災を直接経験していない子供たちが震災に長く関わるきっかけとして、意義深い活動となりました。



② 「落ち葉拾い」

- ・吉成小学区には公園が多いので、毎年秋に中学生と一緒に落ち葉拾いをしています。小学校からは5・6年生が参加しました。今年度も小中学生が協力しながら、一生懸命落ち葉を拾いました。活動が終わる頃にはとてもきれいになり、持ってきたゴミ袋がいっぱいになりました。

③ 「ごみの分別」

- ・各教室に普通ごみのほか、プラスチック用ゴミ箱を設置し、ごみの分別を担当が声掛けしています。



④ 「花壇の整備」

- ・学年ごとに花壇の管理を行っています。春と秋の年2回、花の苗植えをクラスで協力して行い、水やりなどの世話をしています。

3 取組の成果（児童生徒の変容）

- ・震災について自分事として捉え、震災に関連することにかかわりを持ちたいと思う児童が増えました。
- ・小中が連携しての活動を継続して行うことで、「自分にできることで地域貢献する」という意識の高まりが感じられます。
- ・分別に加え、そもそもごみを落とさないようにしようという声掛けがクラスで聞かれるようになりました。
- ・草取りや水やりなどの活動を通して生命尊重の意識が高まっています。

令和4年度 杜の都のエコ・スクール活動報告

学校番号	86	学校名	仙台市立秋保小学校	校長名	坪井 和子
------	----	-----	-----------	-----	-------

1 取組のタイトル, テーマ

自然や生命とのつながり・共生を考えよう。



2 取組の紹介

(1) 花の苗植え, 野菜の栽培活動

5月に学年ごとに育てたい野菜や、育てたい花などを話し合い、種や苗を植えました。収穫が終わった10月下旬には、縦割り班ごとにパンジーやビオラなどの花の苗を植えました。



(2) 田植え, 稲刈り

5, 6年生で地域の方の力をお借りしながら、田植えと稲刈りを行いました。育てたお米は調理実習で使用し、おいしくいただきました。



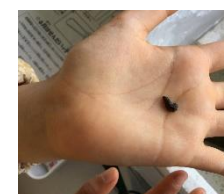
(3) ゴミの分別

燃えるゴミとプラスチックゴミのゴミ箱を分けることで、ゴミの分別を意識しています。



(4) 環境学習

4年生が総合的な学習の時間で環境をテーマに、ゲストティーチャーとして岩切小学校の相澤校長先生をお招きし、カワセミやホタルの生育について学びを深めました。また地域の川に育てたホタルを放流しました。



3 取組の成果 (児童生徒の変容)

- 自分たちで育てたい野菜や花などを考え、それらを育てることにより、自然や生命とのつながりを意識することができました。また、育てたものを各家庭に持ち帰って食べることで、食の有難みを感じることができたと思います。
- ゴミの分別をすることで、自分たちが身近にできることを意識することができました。
- 地域の自然に触れることで、郷土愛や自然を愛護する気持ちが高まりました。

令和4年度 杜の都のエコ・スクール活動報告

学校番号	87	学校名	仙台市立馬場小学校	校長名	後藤 信博
------	----	-----	-----------	-----	-------

1 取組のタイトル「身近にできる活動・地域と関わる環境学習」



2 取組の紹介

(1) 全校・地域で取組

① リサイクル活動【ごみの分別回収】

教室やランチルーム、職員室でも、雑紙・PPC用紙類、プラごみ、一般ごみに分別し、回収しています。また、職員を対象に文房具の分別回収も行っています。日常的に行うことで、児童のリサイクル活動に対する意識も高まっています。さらに、家庭や地域に呼び掛け、子供会育成会が中心となって、年6回の資源回収を行うなど、地域全体で「リサイクル」の意識を育てています。



② 地区清掃

復興プロジェクトの一環として、全校児童が、4月に学校周辺の清掃活動を行いました。清掃を行った道路沿いには、空き缶や紙くず、たばこの吸い殻等がたくさん落ちていて、子供たちは一生懸命拾い集めていました。学区内には、四季をとおして多くの観光客が訪れる秋保大滝があり、少しでもきれいにし、訪れる方々に楽しんでいただきたいという思いで頑張りました。



(2) 学年の取組 (4・5学年 環境保全米 6学年 そばの栽培)

【4・5学年】

秋保地区で行われている、減農薬・減化学肥料による「秋保環境保全米」について、それに携わる地域の方々の思いを、体験をとおして学びました。コロナ禍の中でも、今年度は、秋保温泉共同組合が主催して行う地域での田植え活動に、4・5年生の児童が参加することができました。また、学校内の水田を活用して、5年生が稲作体験も行いました。さらに、5年生は、秋保温泉「ホテル水戸屋」さんを訪問し、「秋保環境保全米」がどのように流通しているか、提供されているかを調べました。実際にお客様に提供している現場を見たり、試食させていただいたりしました。秋保という豊かな自然環境を生かして作ったおいしく安全なお米に感心していました。

【6学年】

あきう生産組合の方々に御協力いただき、学童農園でそばの栽培を行いました。8月に種をまき、10月に収穫しました。収穫したそばの実を製粉し、2月に自分たちでそばを打って味わいました。活動をとおして、そばを種から実まで育て上げることができる地域環境のすばらしさを改めて実感していました。



令和4年度 杜の都のエコ・スクール活動報告

学校番号	88	学校名	仙台市立湯元小学校	校長名	宮崎 佳子
------	----	-----	-----------	-----	-------

- 1 取組のタイトル, テーマ
自然との共生について考えよう



2 取組の紹介

(1) 全校での取組

<湯元クリーンデー>

秋の時期に、学校内外の清掃を行う湯元クリーンデー(1週間の清掃週間)を実施しました。各学年で、朝や清掃時間を使って、1・2年生は校庭や体育館周辺のゴミ拾い、3～6年生は、花壇や学校前の植樹帯の草取りを行いました。



湯元クリーンデー

(2) 委員会での取組

<花壇整備や生き物の世話>

湯元小学校の環境委員会では、業間休みや委員会活動の時間に、花壇の水やりや草取りを行っています。また、イモリやドジョウ、メダカなどの生き物の世話を毎日行っています。自然と共にある学校を目指して、日々活動しています。



委員会活動

<花植え活動>

校内の花壇や学校前の県道沿いに、マリーゴールドやパンジーなどの花を植える活動を、春と秋の2回行いました。また、夏休み明けには、秋保温泉旅館組合の方からいただいたヒマワリの種を植え、秋咲きのヒマワリを育てました。色鮮やかな花壇にすることで、学校が明るく華やかな雰囲気になりました。



花植え活動

3 取組の成果

学校内や植樹帯の美化活動をとおして、普段目につかない場所に多くのゴミが落ちていることに気付いた児童もいました。学校内外の清掃を行うことで、「自分達で学校をきれいにしよう」という、美化活動に取り組もうとする意欲を持たせることができました。小学生も地域の一員であり「みんなで町をきれいにする」意識を持たせることにもつなげています。また、校内の花壇や学校前の県道に様々な花を植えることで植物を大切にしていこうとする心情を育てています。

令和4年度 杜の都のエコ・スクール活動報告

学校番号	89	学校名	仙台市立七北田小学校	校長名	菅原 邦子
------	----	-----	------------	-----	-------

1 テーマ「目指そう！エコ・スクール七北田小学校」



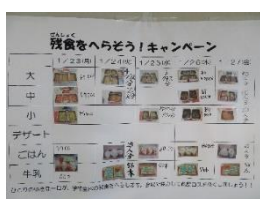
2 取組の紹介

(1)SDGsの視点から自分たちのくらしを見直そう

福祉・JRC委員会では、ボトルキャップ、牛乳パックやベルマークの回収を行っています。昇降口前には、家庭から持参した袋一杯のキャップやパック等を仕分けしながら回収ボックスに入れる子供たちの姿が見られます。集まったキャップを使ったリサイクル・アート作りにも取り組み、その作品は、児童会行事「ゆめフェス」においても展示されました。多く集まったキャップは、プラスチックのリサイクル製品や、世界中の子供たちを救うワクチンの購入などの活動に役立てられています。



環境委員会では、各クラスに段ボールのボックスを配付し、古紙の回収を行っています。古紙を種類別に分けて束ね、リサイクルしやすいようにしています。毎月の委員会活動では、全校の回収ボックスを集め、古紙の分別を行った後、空になったボックスを各クラスに返却しています。教師も児童も、紙を捨てる前に、「おっと…これはリサイクルできるね!」と意識することができます。



給食委員会では、給食週間の活動の一環として、「残食をへらそうキャンペーン」を行いました。給食を下膳するたびに目にする牛乳や主菜・副菜等の残食。毎日多くの食品が廃棄されている現実に向け、委員会の子供たちから提案された活動です。掲示物によって残食を“見える化”し、昼の校内放送でも全校児童に知らせることによって、子供たちに「一口でも多く食べよう」「残さず食べて食品ロスを減らそう」と意識が芽生える良いきっかけづくりとなりました。各クラスでは、「先生！今日は完食しました!」と目を輝かせてうれしそうに知らせる子供たちの姿が多く見られるようになりました。

(2)植物を育てることで学ぶ“命”

各学年では、総合的な学習の時間や生活科の学習活動の一環として、イネ、サツマイモ、ミニトマトなどを育てました。どの学年も、植物の命と向き合いながら心を込めてお世話を行いました。ぐんぐん生長する様子を観察し、収穫の喜びを味わうことができました。

緑化委員会では、6月と11月に職員玄関前の花壇に花の苗や球根を植えました。9月の委員会活動で、どんな花の苗や球根を植えるかアイディアを出し合いました。新学期を迎える頃には、春の花々が花壇を彩ることでしょう。

各栽培活動をとおして、植物のライフサイクルに関心を持ち、共に“生き物”であるという見方ができるようになり、植物が元気に育つためには、水・土・空気が大きな役割を持つことに気付いています。

自分の身近なところから、動植物の命を大切に作る心を育ててほしいと願っています。

3 取組の成果

世界的に注目されているSDGs。持続可能な社会を目指すには、まず自分の身の回りの事象に関する気付きや一人一人の小さな行動の積み重ねが大切であることが分かります。家庭で毎日のように出る紙やプラスチックのゴミをリサイクルする取組から環境問題に興味を持ち、給食の残食を可視化することが、食品ロスをなくそうと努力する態度を育てる小さな一歩になったようです。

環境を守ることは、地球上の全ての生命や安定した暮らしを守ることにつながるという視点を持ち、取り組んでいきたいものです。

令和4年度 杜の都のエコ・スクール活動報告

学校番号	90	学校名	仙台市立野村小学校	校長名	深瀬 貴之
------	----	-----	-----------	-----	-------

1 取組のタイトル, テーマ

みんなで守ろう～わたしたちの大切な自然 in 野村～



2 取組の紹介

(1) 全校

◎ 美化活動

本校で毎年行っている美化活動を6月14日(水)に行いました。たてわり班ごとに4つのグループに分かれ、学校周辺のごみ拾いをしました。5・6年生が中心となり、交通に気を付けて安全に実施することができました。学年ごとに集めるごみの種類を、一般ごみ・びん・カン・ペットボトル・プラごみと分けてごみを集めました。たてわり班ごとに活動することで、上学年が良い手本になり環境美化に対する意欲付けにつながる体験となりました。

◎ 稲作

5年生が中心となり、全校児童で田植えや稲刈りを行いました。また、12月には地域の方々もお招きして収穫感謝祭を開き、収穫したお米をおにぎりにしていただきました。地域農家の方との交流をとおして農業への興味・関心を高める活動をしています。

(2) 児童会活動(環境委員会)

- ◎ 校舎南側の花壇に、曜日ごとの当番に分かれて水やりを行いました。
- ◎ 美化活動では、ごみの分別方法を画用紙にまとめて説明しました。
- ◎ 月に1回、校内のポスターを貼り替え、古いものは古紙として回収しました。
- ◎ 古紙を回収する際に、感熱紙やクリップなどリサイクルできないものの分別もきちんと行いました。



(3) 各学年

- ◎ 各学年、学年教材園で一人一野菜、希望する野菜を決め大切に育てました。
- ◎ 「親子食育講座」では、全校児童と保護者の方々が参加して学年教材園に大根を植えたり、収穫したりして、食の大切さを親子で一緒に学びました。
- ◎ 1年生は生活科で植物の葉を使った「たたき染め」をしたり、学校で採れた柿で干し柿作りをしたりして身近な自然に多く触れました。
- ◎ 2年生は生活科でペットボトルの蓋や空き容器を再利用し、動くおもちゃを作りました。
- ◎ 3年生は図工の「自然の落とし物」や理科の「昆虫探し」の学習の時間に、地域に出て自然にふれあう機会を多く持ちました。
- ◎ 4年生は総合的な学習の時間に泉ヶ岳の動植物を調べたり、野外活動で登山をしたりして、泉ヶ岳の自然に触れました。また、理科でヘチマを育て、ヘチマスポンジやグリーンカーテンを作りました。
- ◎ 5年生は家庭科で3Rや5Rについて学び、エコ活動を意識して生活しました。
- ◎ 6年生は家庭科で効果のある洗剤の量を学び、必要以上に使用しない大切さを学びました。
- ◎ 5・6年生は国語の教材文を用いて環境問題について考え、地域の自然を生かす取組について調べたり、考えたりしたことを発表しました。
- ◎ 5・6年生は夏に、3・4年生は冬に、花壇の花を植え替えました。



3 取組の成果(児童生徒の変容)

- ◎ 低学年の児童も普段からエコ活動を意識しながら生活しました。
- ◎ 学年教材園での野菜作りや稲作、花壇の水やり等の体験から植物の育つ環境の大切さを知ることができました。
- ◎ 生活科、家庭科などの学習や美化活動、収穫感謝の会などの学校行事をとおして、身の回りの環境や環境問題に関心を高めました。